

■ 函南町地域公共交通計画 主な変更点（新旧対照）

【現行計画】（旧） 函南町地域公共交通網形成計画	【改定計画】（新） 函南町地域公共交通計画
1 はじめに 1-1 計画策定の背景と目的 (1) 地域公共交通を取り巻く法的背景 (2) 函南町における地域公共交通のありみ (3) 函南町地域公共交通網形成計画策定の目的・意義 ① 目的 ② 意義 1-2 計画の位置づけ 1-3 計画区域 1-4 計画期間 2020 年度（令和 2 年度）から 2024 年度（令和 6 年度）までの 5 年間	1 はじめに 1-1 計画策定の背景と目的 (1) 地域公共交通を取り巻く法的背景 ⇒「地域公共交通の活性化及び再生に関する法律等の一部を改正する法律」（2023 年（令和 5 年）4 月）を追加 (2) 函南町における地域公共交通のありみ ⇒現行計画策定以降のありみを追加 (3) 函南町地域公共交通計画策定の目的・意義 ① 目的 ② 意義 ③ SDGs における位置づけ 1-2 計画の位置づけ ⇒法改正、県計画策定、伊豆地域の計画改定を反映 1-3 計画区域 1-4 計画期間 ⇒2025 年度（令和 7 年度）から 2029 年度（令和 11 年度）までの 5 年間
2 地域公共交通、地域公共交通の担い手・協議組織の役割 2-1 公共交通機関の役割 2-2 その他の交通機関の役割 2-3 地域公共交通の担い手・協議組織	2 地域公共交通、地域公共交通の担い手・協議組織の役割 2-1 公共交通機関の役割 ⇒現状に合わせた交通機関の見直し ・拠点循環コミュニティバス（実証運行）、デマンド型乗合タクシー（実証運行）、デマンド型乗合福祉タクシー（実証運行）、ボランティア輸送 を追加 ・自主運行バス を削除 2-2 その他の交通機関の役割 ⇒現状に合わせた交通機関の見直し ・その他送迎バスにダイヤランドバス、函南ゴルフ倶楽部送迎バス、田方自動車学校送迎バスを追加 2-3 地域公共交通の担い手・協議組織 ⇒現状に合わせた交通機関の見直し ・地域公共交通会議（法定協議会）に、運賃協議会 を追加 ・有償運送運営協議会 を追加 ・伊豆地域公共交通活性化協議会 に変更

【現行計画】（旧） 函南町地域公共交通網形成計画	【改定計画】（新） 函南町地域公共交通計画
3 本町の現況と課題	3 本町の現況及び課題 3－1 現況調査結果 3－2 各種調査結果 ⇒各種調査結果の概要 を追記 3－3 現況まとめと課題 ⇒課題の変化について言及 ・公共交通事業環境が厳しい（コロナ禍による利用者減とそれ以降回復しきらない現状、運転手不足を背景とした相次ぐ退出） ・一部地域で、自主運行タクシーやデマンド型乗合タクシー（実証運行）、ボランティア輸送により、移動手段を確保の取組が進められているものの、交通空白地域の解消や利便性向上が必要

【現行計画】(旧) 函南町地域公共交通網形成計画	【改定計画】(新) 函南町地域公共交通計画
4 <u>地域公共交通網形成計画</u>の基本的な方針 (1) 地域公共交通計画の全体方針と目指す姿 ① 上位計画における町の将来像 ② 地域公共交通計画の全体方針と目指す姿 拠点の形成と 誰もが利用できる 利用し たくなる <u>公共交通網の形成</u> ③ 将来公共交通網構想図 (2) 地域公共交通計画の基本的な方針 I 既存のニーズと交通機関を活かした基幹 交通の再編 (取組・事業の方向性) 1 既存公共交通の見直し・改善 2 既存の交通機関の有効活用 II 幅広い交流を目指した公共交通網の形成 (取組・事業の方向性) 1 拠点間を結ぶ公共交通網の形成 2 観光・文化資源の活用による利用促進 III 持続可能な公共交通の推進 (取組・事業の方向性) 1 わかりやすい・使いやすい公共交通の推進 2 公共交通維持に向けたモビリティ・マネジ メントの実施 3 その他持続可能な公共交通のための取り 組み IV 地域の特性に応じた交通モードによる 支線交通の形成 (取組・事業の方向性) 1 地域で考える支線交通の形成 2 利用者負担軽減による支線交通の実現	4 地域公共交通計画の基本的な方針 (1) 地域公共交通計画の全体方針と目指す姿 ① 上位計画における町の将来像 ② 地域公共交通計画の全体方針と目指す姿 誰もが利用できる 利用したくなる 持続可能な公共交通網の確保・維持 ⇒維持していく(できる)ことが重要という考 えを表現 ③ 将来公共交通網構想図 ⇒デマンド型乗合福祉タクシーを追加、ダイヤ ランドバスに名称変更 (2) 地域公共交通計画の基本的な方針 I 既存のニーズと交通機関を活かした基幹 交通の再編 (取組・事業の方向性) 1 既存公共交通の確保・維持 2 既存の交通機関の有効活用 II 幅広い交流を目指した公共交通網の形成 (取組・事業の方向性) 1 拠点間を結ぶ公共交通網の形成 2 観光・文化資源の活用による利用促進 III 持続可能な公共交通の推進 (取組・事業の方向性) 1 わかりやすい・使いやすい公共交通の推進 2 公共交通維持に向けたモビリティ・マネジ メントの実施 3 その他持続可能な公共交通のための取り 組み IV 地域の特性に応じた交通モードによる 支線交通の形成 (取組・事業の方向性) 1 地域で考える支線交通の形成 2 利用者負担軽減による支線交通の実現

【現行計画】(旧) 函南町地域公共交通網形成計画	【改定計画】(新) 函南町地域公共交通計画
5 「目指す姿」を実現するための施策・事業 5-1 地域公共交通の施策・事業の立案 基本方針Ⅰ 既存のニーズと交通機関を活かした基幹交通の再編 施策1 既存公共交通の見直し・改善 ①路線バスのルート再編・ダイヤの見直し ②バス・鉄道の連絡強化（待合・乗換環境の整備） 施策2 既存の交通機関の有効活用 ③送迎バス・スクールバスの有効活用・相互利用 基本方針Ⅱ 幅広い交流を目指した公共交通網の形成 施策1 拠点間を結ぶ公共交通網の形成 ④拠点循環バスの新規導入（実証） 施策2 観光・文化資源の活用による利用促進 ⑤バスマップ・施設案内等の情報発信ツール作成による利用促進	5 「目指す姿」を実現するための施策・事業 5-1 地域公共交通の施策・事業の立案 基本方針Ⅰ 既存のニーズと交通機関を活かした基幹交通の再編 施策1 既存公共交通の確保・維持 1-①路線バスのルート再編・ダイヤの見直し 1-②バス・鉄道の連絡強化（待合・乗換環境の整備） 1-③路線バスの維持・支援（事業者等への助成による支援） ⇒実施している事業者への助成を追加 施策2 既存の交通機関の有効活用 2-①送迎バス・スクールバスの有効活用・相互利用 2-②デマンド型乗合タクシーの維持・拡大 ⇒大場-函南デマンドタクシーの運行を維持（実証運行から本格運行へ） ⇒交通空白地域への拡大検討、予約方法の多様化など、利用しやすい環境づくり 基本方針Ⅱ 幅広い交流を目指した公共交通網の形成 施策1 拠点間を結ぶ公共交通網の形成 1-①拠点循環コミュニティバスの運行継続（本格運行へ移行） ⇒最適な運行方法の検討、本格運行を目指す 施策2 観光・文化資源の活用による利用促進 2-①バスマップ・施設案内等の情報発信ツール作成による利用促進 ⇒町HP・SNSでの発信、観光・文化資源、商業施設等と連携強化

【現行計画】（旧） 函南町地域公共交通網形成計画	【改定計画】（新） 函南町地域公共交通計画
基本方針Ⅲ 持続可能な公共交通の推進 施策１ わかりやすい・使いやすい公共交通の推進 ⑥運行情報・乗り換え情報等の提供 ⑦車両のバリアフリー化・多様な利用者に対応した運用 施策２ 公共交通維持に向けたモビリティ・マネジメントの実施 ⑧地域公共交通会議・意見交換会等の設置・継続開催 ⑨イベント・講習会等による公共交通の利用促進の啓発 ⑩公共交通サポーター制度等による利用促進、公共交通に携わる企業等の発掘・育成 ⑪運転手の採用・養成・支援等 施策３ その他持続可能な公共交通のための取り組み ⑫広告等副次的収入の検討・獲得	基本方針Ⅲ 持続可能な公共交通の推進 施策１ わかりやすい・使いやすい公共交通の推進 1-①運行情報・乗り換え情報等の提供 ⇒事業者 HP・スマホアプリ等を活用した案内等 1-②車両のバリアフリー化・多様な利用者に対応した運用 施策２ 公共交通維持に向けたモビリティ・マネジメントの実施 2-①地域公共交通会議・意見交換会等の設置・継続開催 2-②イベント・講習会等による公共交通の利用促進の啓発 2-③公共交通サポーター制度等による利用促進、公共交通に携わる企業等の発掘・育成 2-④運転手の採用・養成・支援等 ⇒交通事業者の採用活動の周知 を追記 施策３ その他持続可能な公共交通のための取り組み 3-①広告等副次的収入の検討・獲得 3-②環境に配慮した車両の導入 ⇒交通 GX を反映 3-③情報発信等による公共交通利用に対する意識の醸成 ⇒公共交通利用促進の啓発 3-④デジタル技術を活用した公共交通サービスの効率化・高度化 ⇒AI オンデマンド交通、MaaS など、公共交通の DX による効率化・高度化による利便性向上

【現行計画】（旧） 函南町地域公共交通網形成計画	【改定計画】（新） 函南町地域公共交通計画
基本方針Ⅳ 地域の特性に応じた交通モードによる支線交通の形成 施策１ 地域で考える支線交通の形成 ⑬地域交通形成のための地区別懇談会等の開催 ⑭交通空白地域への対応 施策２ 利用者負担軽減による支線交通の実現 ⑮利用者補助（割引・補助券等の配布等）	基本方針Ⅳ 地域の特性に応じた交通モードによる支線交通の形成 施策１ 地域で考える支線交通の形成 1-①地域交通形成のための地区別懇談会等の開催 1-②交通空白地域への対応 ⇒デマンドタクシー、自家用有償旅客運送（ライドシェア）、AI オンデマンド交通等の新規導入、運転ボランティア活用等の検討・実験を行い、導入を目指す ⇒パサディナ号の事例（高齢者福祉自動車） 施策２ 利用者負担軽減による支線交通の実現 2-①利用者補助（割引・補助券等の配布等）

【現行計画】（旧） 函南町地域公共交通網形成計画	【改定計画】（新） 函南町地域公共交通計画
６ 計画の達成状況の評価 ６－１ 数値目標 基本方針Ⅰ 既存のニーズと交通機関を活かした基幹交通の再編 ①路線バスの年間利用人数 （路線バス利用者数） ※事業者データによる 基本方針Ⅱ 幅広い交流を目指した公共交通網の形成 ②実証運行の満足度 ※利用者アンケートによる ※５段階評価 基本方針Ⅲ 持続可能な公共交通の推進 ③バスの現状に対する満足度（総合評価） ※利用者アンケート調査による ※５段階評価	６ 計画の達成状況の評価 ６－１ 数値目標 基本方針Ⅰ 既存のニーズと交通機関を活かした基幹交通の再編 ①路線バスの年間利用人数 （路線バス：大場畑毛線の利用者数） ※事業者データによる 基本方針Ⅱ 幅広い交流を目指した公共交通網の形成 ②拠点循環コミュニティバスの日平均利用者数 ③拠点循環バスの満足度 ※利用者アンケートによる ※５段階評価 基本方針Ⅲ 持続可能な公共交通の推進 ④バスの現状に対する満足度（総合評価） ※利用者アンケート調査による ※５段階評価 ⑤地域公共交通利用促進・活性化のイベント

基本方針Ⅳ 地域の特性に応じた交通モードによる支線交通の形成 ④交通空白地域解消に向けた施策として、支線交通を導入・改善した新規案件 6-2 計画の達成状況の評価	や利用促進に係る取り組みの立案・実施 基本方針Ⅳ 地域の特性に応じた交通モードによる支線交通の形成 ⑥交通空白地域解消に向けた施策として、支線交通を導入・改善した新規案件 6-2 計画の達成状況の評価
--	--